



すこやかスマイル

2020

6

205号

■組合員数 10,556名 ■出資金 3億8,251万5千円 2020年4月末現在

【発行】ながおか医療生活協同組合本部 〒940-0042 長岡市前田 1-6-7
TEL 0258-38-0813 FAX 0258-30-1160

ながおか医療生活協同組合

検索



(切り絵)

ながおか医療生協 創立25周年をむかえて

理事長 羽賀 正人

この原稿を書いている4月中旬はコロナウイルス感染拡大のニュースでもちきりです。私達、医療現場でも介護現場でも、かつてない緊張を強いられ、1日も早い収束を願うばかりです。

さて、ながおか医療生協は1995年5月10日ながおか生協診療所開設とともに事業を開始しました。しかし生協法人認可が容易でなかったこと、開設後の診療所患者数も思うように伸びず、経営的にも厳しい立ち上がりでした。

5年後の2000年、介護保険制度発足とともに、介護事業に踏み出し、2002年に神田診療所と組織合同、2003年生協かんだ診療所が開設、デイサービスも併設しました。さあこれからという矢先、2004年に中越大地震で被災しました。支援もいただき何とか乗り越えることができたが、この時感じた地域のライフラインとしての「医、職（食）、住」、地域復興にむけた生協の果たすべき役割を模索しながら今日にいたった気がします。ただ、幸運にも常勤医師増がありました。小児科専門医の相次ぐ参加により、全世代にむけたサービスが可能となりました。ここまでの生協の来し方をふりかえると、いくつかの困難時とともに支えて頂いた多くの組合員には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

しかし重要なのはこれからです。古来より「創業は易し、守成は難し」と申します。

2019年度は、介護の担い手不足、年度末のコロナショックもあり順調な経営年度とはなりませんでしたが、今年度も、しばらく我慢の時がつづくかもしれません。この状況下では25周年記念事業どころか定例の行事すら予定できません。ただ総代会は延期というわけにもいかず、縮小して小規模で開催せざるを得なくなりました。ご意見やご要望は、文書でまたオンラインで広く受けたまわります。多くの組合員の英知と工夫を結集してこの難局をしのぎたいと思います。

また、本紙に「25周年記念増資の振込用紙」を折り込みました。大変なところではございますがご協力いただけると大変ありがたく存じます。



生協との出会いは食卓

組合員 中林 スミ

生協との出会いは20数年前、友人に誘われ食卓会（にんじんの会）の仲間に入れていただいたことがきっかけでした。当時は、診療所の2階会議室で利用者、ボランティア各20人くらいで月2回の食事会と年1回のバス旅行も楽しみました。食事会のスタートは、一人暮らしの男性が食事に困っていたことからだそうで、ご夫婦で利用された方も2組いました。



バスハイクに参加。左が中林さん。一緒に参加した渡辺さん(右)も生協の仲間です

家庭菜園の野菜や山菜も持ち寄り、不揃いの食器を使い「家庭の食事のような暖かい雰囲気がいい。」と喜ばれました。10年くらいたつて、介護保険制度も間近となり「わいが家」建設も始まったところ、全員めでたく卒業しましたが、この間、今につながる大切な友人が大勢出来ました。

診療所は、毎月定期的に受診し、時には大きな病院に紹介していただいたこともあります。そして、生協加入当初は予想もしなかった事もありました。

それは、一昨年107歳で逝った姑が、高町、笹崎、最後は老健あらまちなど、生協の介護施設を利用し、手厚く看取って頂いたことです。感謝！です。

私は今、高齢期を健康に過ごすために、運動教室のヨガを楽しんでいます。いろいろなポーズの後、仰向けに寝て全身脱力する時、本当に眠ってしまい、先生に起こしていただくことも：（笑）ここでもまた、新しい友人が出来ました。

今はコロナの影響で教室はお休みですが、再開を楽しみに待っています。

私と医療生協

組合員 長谷川 婦美

2002年、民医連の役員をしていた岡崎さんから「今度、神田診療所の組織が変わり、生協となる。そこで新町支部の役員になってほしい。」との話がありました。日頃お世話になっている岡崎さんからのことでしたので、断れずつい受けてしまい、これが私と医療生協の出会いです。最初のうちは、役員会に出ていつも「お客様」でした。

忘れられない活動は、雨の日も雪の日も、毎月「仲間増やし」に二人一組で地域訪問をしたことです。知らない町内を訪問するのですから、緊張の連続でした。訪問先では、診療所や事業所についての質問を受けたり、ご自身や身近な人の不安や心配を話されたり、短時間の対話の中でいろいろなことを話しました。また、診療所まつりでは、早朝から山に行つて収穫した朝採り竹の子を販売し、地域の人から非常に喜ばれたこともありました。そして買いに来られた方との会話も楽しみの一つでした。これらの活動を通じ、生協は、組合員・住民とつながっていることが大切なのだ学び、私の活動の原点となっています。

そして12年前、岡崎さんと相談し、町内の人が気軽に集まれる場所を作ろうと、地域に健康班を作りました。生協の専門職による講話や運動指導、脳トレなど、内容は様々。最後はお茶のみとおしゃべりで、みんな笑いながら楽しくやっています。班会の継続で参加者の絆も深まり、困った時、悩んでいる時にお互い支えになっていると実感しています。

ながおか医療生協は、医師も増え診療内容も充実、職員も多くなりました。これからも組合員、地域に信頼される医療生協であってほしいと願っています。

